

キリスト教史学会第75回大会  
公開シンポジウム  
大東亜共栄圏とキリスト教

日本基督教朝鮮教団

李元重  
同志社大学  
キリスト教文化センター  
准教授

2024年9月13日  
金城学院大学

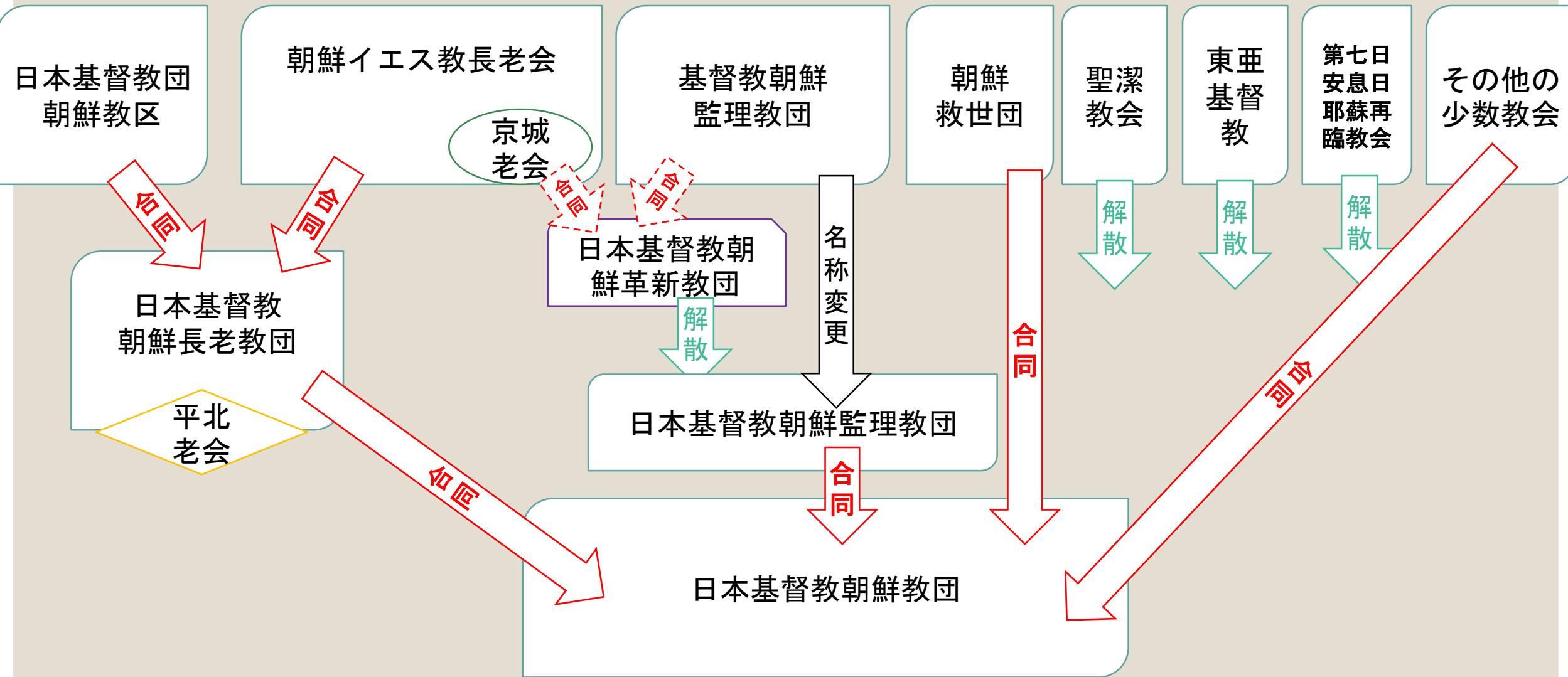
# 戦時下植民地朝鮮におけるキリスト教信 徒数（1941年末）

- 天主教会(カトリック教会): 109,210
- 長老教会: 262,037
- 監理教会(メソジスト教会): 50,286
- 聖潔教会(東洋宣教会): 9,167
- 聖公会: 7,738
- 救世団: 4,876

# 戦時下植民地朝鮮におけるキリスト教信 徒数（1941年末）

- 日本基督教団(朝鮮教区): 5,381
- その他: 10,606
- 合計: 459,301
- 出典: 朝鮮総督府学務局鍊成課『朝鮮の宗教及享祀要覧: 昭和一六年12月末調』

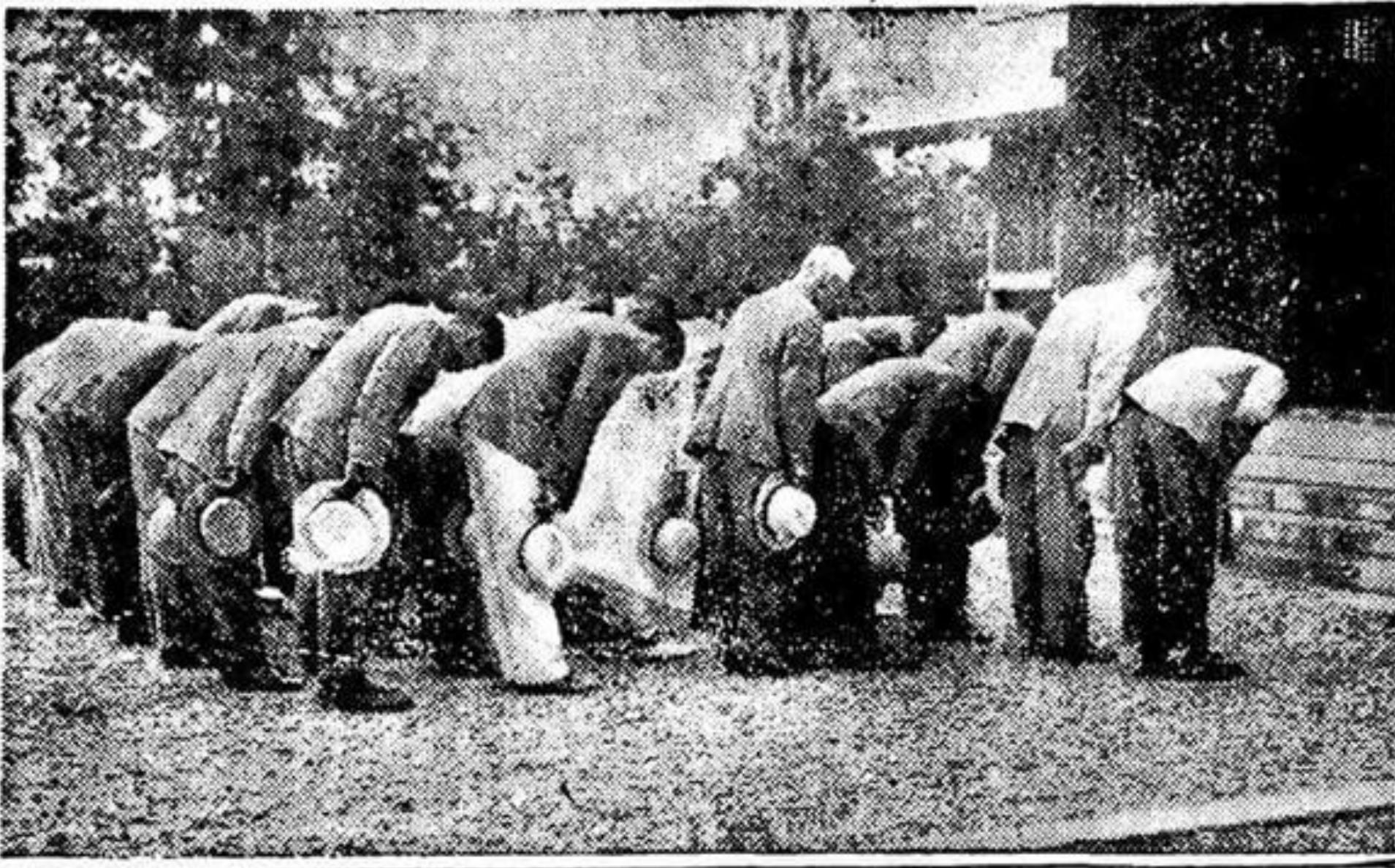
# 戦時下植民地朝鮮のプロテスタント教会の合同



# 皇民化政策下での教会の変質

- キリスト教学校への神社参拝強要
- 神社参拝反対運動への弾圧
- 1936年6月、教皇庁の勧告に従って天主教会は神社参拝を許可
- 1936年6月、基督教朝鮮監理会の神社参拝受容
- 1938年9月、朝鮮イエス教長老会の神社参拝決議
- 1940年11月、朝鮮救世軍は「朝鮮救世団」に「革新」

平壌神社參拜する長老會總會代表 (朝鮮日報)



1938年9月10日、朝鮮イエス教長老会の代表の神社参拝 (『朝鮮日報』)

# 合同運動の始まり：朝鮮基督教連合会

- 1938年5月、朝鮮基督教連合会(朝鮮人キリスト者と在朝鮮日本人キリスト者の協力団体)の結成
- 新義州から釜山まで、全国に48の地域連合会
- 委員長は丹羽清次郎。朝鮮人82人、日本人20人の評議員
- 内鮮一体、戦争協力、日本のキリスト教の推進
- 教会合同の実現による内鮮一体の確立

# 合同運動の経過

- 1942年9月、富田満の来朝鮮:「日本の基督教の樹立と教派合同問題」→教派合同は宣教師からの自立、合同は教会の本質、日本の教会は合同によって国家の公認を受け、国家のものとなつた。「半島のキリスト教が一日も早く日本の性格を持つ合同教会となること」を勧め(『基督教新聞』25号、1942.10.14)
- 朝鮮イエス教長老会第31回総会(1942年10月)において、教派合同を決意、実務を中央常置委員会に一任。

# 合同運動の経過

- 1943年1月12日、第1回朝鮮基督教新教派合同各派代表協議会：長老教会、監理教会、聖潔教会、救世団、朝鮮教区の会合
- 1月26～27日：朝鮮基督教合同準備委員会開催：合同に対する内容の合意（7・8月中合同教会発足を目指す）
- 2月16日、神学校合同委員会で朝鮮神学院、監理会神学校、京城神学校の合併を決意
- 3月16日、合同準備委員会で監理教会の卞鴻圭が「革新案」を提示したが受容されず、離脱→合同の霧散

# 「日本基督教朝鮮革新教団」の試み

- 1942年10月、監理教会の鄭春洙統理者の弾劾、12月卞鴻圭の統理者選出→総督府の不満
- 総督府政策に協力するための、卞鴻圭の試み: ①合同教会の急進的日本化(失敗)②長老教会と共に教会合同(「革新教団」の設立)
- 1943年4月2日、全弼淳(京畿老会長)の協力で監理教会の特別総会に長老教会の京畿老会の代議員10人が出席し、「日本基督教朝鮮革新教団」の成立を可決、統理者として全弼淳を選出→総督府から非認可、解散

# 「日本基督教朝鮮革新教団」の試み

- 1943年5月、総督府の圧力によって卞鴻圭は辞任
- 1943年10月、鄭春洙の統理者選出、監理教会は「基督教朝鮮監理教団」から「日本基督教朝鮮監理教団」に名称変更

# 日本基督教朝鮮長老教団の成立

- 長老教会の金應珣総会長が、1943年4月10日に臨時総会を招集する公告啓示：招集理由は「日本基督教朝鮮教団の創立（5月5日）のための教団規則の批准」
- 1943年5月4日に、臨時総会ではなく中央常置委員会が開催され、「教派合同」に同意、「日本基督教朝鮮教団規則草案」（村岸清彦作成）を改訂
- 1943年5月7日、「日本基督教朝鮮長老教団」創立総会開催（会長：蔡弼近）

# 日本基督教朝鮮長老教団の成立

- 朝鮮イエス教長老会と日本基督教団朝鮮教区との合同
- 朝鮮イエス教長老会の終焉
- 27老会→13教区と1布教区
- 総督府は、「教派新設」ではなく「教派名称変更」として受け入れ
- 日本基督教団朝鮮教区の二重教籍
- 朝鮮イエス教長老会が朝鮮教区に隸属されるものではない。

# 平北老会の反発

- 平北老会は、朝鮮長老教団に反発、合同の無効を主張
- その理由は、民族の主体性・長老教会の自主性のためではなく、長老教会内のヘゲモニー争い
- 1944年8月11日、妥協案(平北老会の復帰、長老教団の役員の辞退、その後のことは中央常置委員会に一任)

# なぜ完全合同が遅かったか？

- すでに十分な戦争協力
- 時局講演会と集会、勤労奉仕、献金と献品
- 「愛国機」の献納
- 教会の「鐘の献納」: 1942年1月から9月まで長老教会は1,540個を献納(朴ミンソン「朝鮮キリスト教の合同と対日協力」)

## 戦争を支持するキリスト者 の講演会（『毎日新報』1942.2.15）

# 英·東洋侵略의牙城 新嘉坡攻略大講演會

(入場無料)

# 明夜

### 士演及題演

一、東亞黎明正半島女性  
二、新嘉坡陷落과英帝國  
三、大東亞建設과 우리準備  
四、新嘉坡陷落과大東亞의將來  
五、高  
六、

明十五日 午後六時半 府氏館에서

主催 本社

永河(朴)仁德  
張德秀  
天城(金)活蘭  
高靈(申)興雨

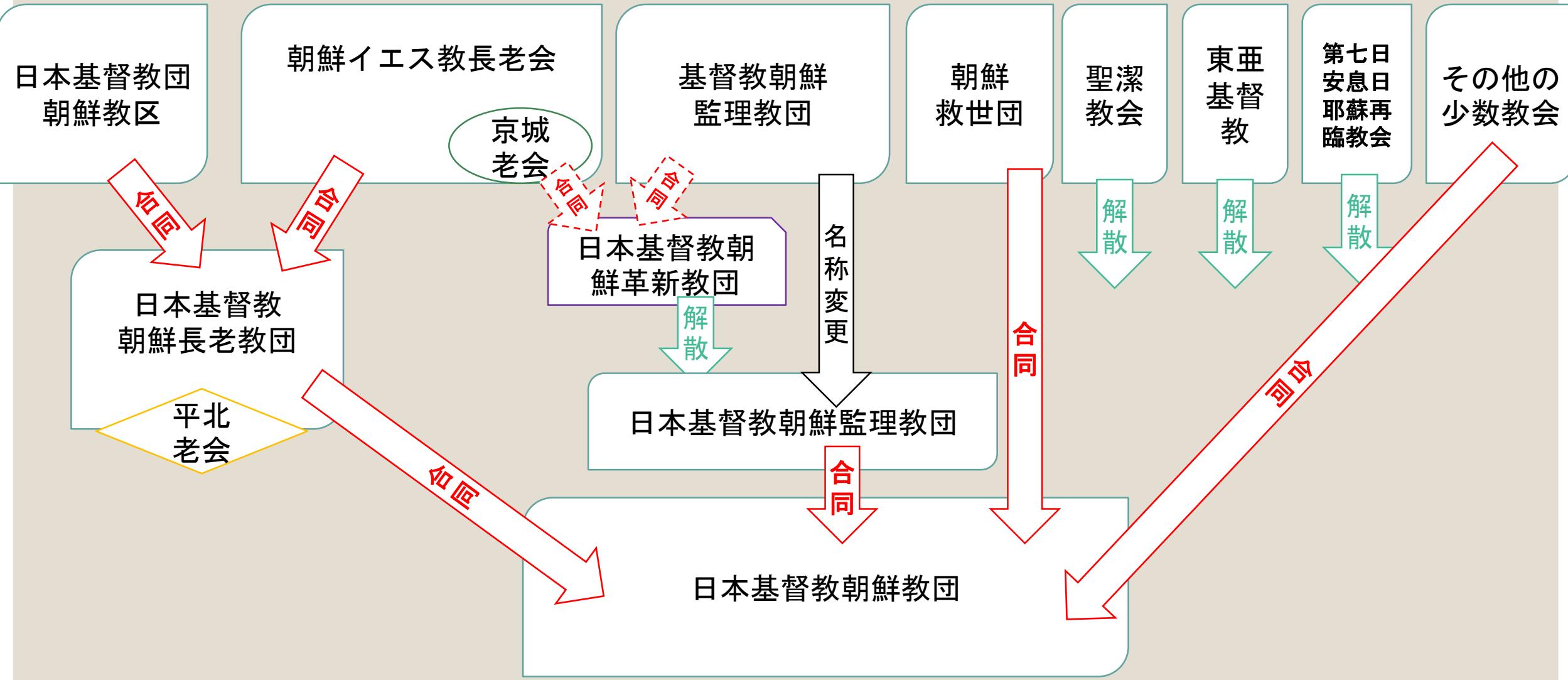
# 日本基督教朝鮮教団の成立

- 1944年7月、阿部信行総督と遠藤柳作政務総監の赴任
- 12月8日、「朝鮮戦時宗教報国会」の結成
- 1945年春から全仁善の準備作業
- 1945年6月25日、遠藤と52人の教会の代表の懇談会、プロテスタント教会の完全合同を求める。20人の委員会を構成。翌日委員会による合同の準備開始。

# 日本基督教朝鮮教団の成立

- 7月19日、貞洞教会にて59人の各教派代議員(delegate)と学務局の代表(representative)が集合して、創立総会を開催。規則を採択し、各教会は解散宣言
- 統理者(金觀植)副統理者(金應泰)は総督府が任命。125人の代議員構成
- 8月1日に業務開始、8月31日までは各教派所有の現金の譲渡、12月末までは、財産の移管の予定
- 8月15日、日本敗戦、朝鮮半島は分断

# 戦時下植民地朝鮮のプロテスタント教会の合同



# 植民地統治終焉と朝鮮教団の行方

- 名称変更:「朝鮮基督教団」
- 1945年9月8日、南部大会招集した、監理教会側の離脱によって成立ならず
- 同年11月27～30日、基督教朝鮮南部大会の開催
- 各教会の再建運動
- 1946年4月30日～5月2日、第2次基督教朝鮮南部大会をもって解散
- 1946年の秋、朝鮮基督教連合会の創設(KNCCの前身)

# 植民地統治終焉と朝鮮教団の行方

- 半島北部の長老教会は日本基督教朝鮮教団に合同したとの意識が希薄。
- 長老教会は、1945年12月平壤章台峴教会において「五道連合老会」組織
- 監理教会は、「西部年会」として再建
- いずれも、ソ連軍政の圧力と戦う

# まとめ

- 総督府の皇民化政策と戦争遂行に教会の協力としての教会合同  
→教会の生存のための教会合同
- 圧力の解消とともに合同も解消
- 「(合同)教会」とは何かに対する神学的に省察は見当たらない
- より大きな課題の前で、合同に対する考察は消失: 神社参拝に対する対応、南北分断、軍政下の独立国家建設、左右対立、朝鮮戦争
- 戦争協力に対する悔い改めの不在は教会の未解決の課題